

第3回 情報セキュリティセミナー

第三者証明書を用いたバックアップ DCとしての事業展望

2012年10月26日
三谷産業株式会社
情報システム事業部



Copyright ©2012 Mitani Sangyo. All rights reserved.

三谷産業株式会社 会社概要

- 創業 : 昭和 3年2月11日
- 設立 : 昭和24年8月11日
- 資本金 : 37億200万円（名証2部上場）
- 従業員 : 1, 669名（単体456名）（平成24年3月現在）
- 売上高 : 615億円（連結）※6セグメント、子会社26社 関連会社6社
- 事業概要 : 情報システム関連
化学品関連
樹脂・エレクトロニクス関連
空調設備工事関連
建設資材関連
エネルギー関連（燃料・ガス）

※国内各セグメントのベトナムでの事業展開



東京本社
東京都中央区築地

金沢本社
石川県金沢市

ICT関連事業

- 事業部 : 情報システム事業部（首都圏・北陸）
A I T (Aureole Information Technology Inc.)社（ベトナム）
コンフィデンシャルサービス(株)（石川）
- 概要 : システムインテグレーション
ネットワークインテグレーション
ポータル・ワークフローのコンサルティング／導入
データセンター／クラウドサービス
※産学共同研究

IDC事業

- 事業開始 : 1999年～
- 営業／技術拠点（東京都中央区築地）
情報システム事業部
クラウドソリューション営業部
- 運用／技術拠点（石川県能美市）
コンフィデンシャルサービス(株)



アウトソーシングビジネスの沿革

【沿革】

平成11年 (1999年)	9月 10月	三谷サイエンスパーク研究所（第一棟）竣工 アウトソーシング事業開始
平成12年	4月 10月 12月	web／メールホスティング・サーバーハウジングサービス開始 運輸省中部運輸局より倉庫業営業許可を受けデータ保管・機密書類保管事業開始 通産省「情報処理サービス業情報システム安全対策実施事業所」認定
平成13年	4月 7月 9月 10月	ASP（POWER EGG）サービス開始 ASP（GLOVIA-C会計・給与）サービス開始 全社でISO14000認証取得 汎用機ホスティング・ハウジングサービス、遠隔監視サービス開始
平成14年	12月	運用サービス子会社「コンフィデンシャルサービス(株)」設立
平成15年	2月 5月 11月 12月	富士通B- IDCパートナー契約締結 BS7799:2002、ISMS適合性評価制度V1.0同時認証取得 ISMS適合性評価制度V2.0認証取得 第二棟 竣工
平成16年	2月	プライバシーマーク制度認定取得
平成19年	3月	ISMS認証⇒ ISO/IEC 27001:2005 / JIS Q 27001:2006へ移行
平成20年	1月	ASP・SaaS・ICTアウトソーシングアワード2007/2008 IDC部門 準グランプリ受賞
平成22年	4月	情報セキュリティ格付 第三者評価実施
平成24年	4月	情報セキュリティ格付 格付符号AAAを付与

【加盟団体】

社団法人テレコムサービス協会
石川県倉庫協会
石川県ネットワークセキュリティ
ASP・SaaSインダストリ・コンソーシアム
itSMF Japan

(第二種電気通信事業者加盟団体)
(倉庫業事業者加盟団体)
(石川県警ハイテク犯罪対策)
(ASP・SaaS普及促進団体)
(情報システム運用管理基準ITILの普及促進団体)



主要建物の概要

弊社アウトソーシング事業は、平成11年（1999年）「いしかわサイエンスパーク」地内に建設した
「三谷サイエンスパーク研究所」において開始しました。



<三谷サイエンスパーク研究所第一棟建築概要>

所在地：石川県能美市旭台「いしかわサイエンスパーク」地内
敷地面積：8,616.23 m²
建築面積：896.98 m² (2棟、3階建)
建物構造：耐震構造（研究棟）、免震構造（倉庫棟）



<三谷サイエンスパーク研究所第二棟建築概要>

所在地：石川県能美市旭台「いしかわサイエンスパーク」地内
敷地面積：約3,500.00 m²
建築面積：2,091.00 m² (2棟、2階建)
建物構造：免震構造（サーバ棟）、耐震構造（管理棟）

第三者機関からの評価

■ 情報セキュリティ格付

企業・団体名	三谷産業株式会社	格付IDコード	10000230115C1203
格付スコープ	アウトソーシングサービス* (*ハウジング、ホスティング、運用支援業務及びデータ保管業務)		
想定リスク	情報漏えい		
格付対象	業務本部 業務第一部 コンフィデンシャルサービス株式会社(三谷産業株式会社の子会社)		
格付符号	AAA _{is} (トリプルA) *	格付交付日 (有効期限)	2012年4月9日 (2013年4月8日)

“AAA”とは、
不当な事象が社会全体に重大な影響を及ぼし、国内・外までに及ぶ大混乱を起こし得る情報を取り扱うことのできるレベルを表します。

想定業種としまして、防衛関連(国防、国家機密情報)、重要インフラ(人命に関わる重大な情報)、金融関連(金融・証券情報)や医療関連(レセプト情報)などになります。

AAA _{is}	AA ⁺ _{is}	AA _{is}	AA ⁻ _{is}	A ⁺ _{is}	A _{is}	A ⁻ _{is}	BBB ⁺ _{is}	BBB _{is}	BBB ⁻ _{is}	BB ⁺ _{is}	BB _{is}	BB ⁻ _{is}	B ⁺ _{is}	B _{is}	B ⁻ _{is}	C _{is}
-------------------	-------------------------------	------------------	-------------------------------	------------------------------	-----------------	------------------------------	--------------------------------	-------------------	--------------------------------	-------------------------------	------------------	-------------------------------	------------------------------	-----------------	------------------------------	-----------------

「情報セキュリティ格付」とは、業や組織が取り扱う技術情報、営業機密、個人情報などの情報について、漏えい、改ざん、サービス停止などの事故が起きないよう管理を徹底しているかを第三者機関が公平に評価し、そのレベルをわかりやすく示す指標であります。マネジメントの成熟度、脅威に対する対策の強度、コンプライアンスへの取り組みなどの視点から総合的に評価され、その結果としてAAA_{is}からAA⁺_{is}、A_{is}、AA⁻_{is}、A⁺_{is}、…C_{is}の17段階の符号で表されます。

■ 主な格付取得企業

2012年9月18日現在

企業名	格付スコープ	格付交付日(有効期限)	格付符号
三谷産業株式会社	アウトソーシングサービス	2012年4月9日(2013年4月8日)	AAA _{is}
富士通株式会社	明石システムセンター	2012年5月12日(2013年5月11日)	AAA _{is}
富士通株式会社	館林システムセンター	2012年2月18日(2013年2月17日)	AAA _{is}
富士通エフ・アイ・ピー株式会社	中部データセンター	2012年5月31日(2013年5月30日)	AAA _{is}
富士通エフ・アイ・ピー株式会社	横浜データセンター	2012年1月24日(2013年1月23日)	AAA _{is}
大日本印刷株式会社	蕨工場における情報処理サービスに関する設計・開発及び製造	2012年8月30日(2013年8月29日)	AAA _{is}
エヌ・アール・アイ・セキュアテクノロジーズ株式会社	クリプト便サービス運用業務	2012年8月25日(2013年8月24日)	AAA _{is}
富士通エフ・アイ・ピー株式会社	九州データセンター	2011年10月14日(2012年10月13日)	AA ⁺ _{is}
株式会社富士通エフサス	東京LCMサービスセンター	2011年12月20日(2012年12月19日)	AA _{is}
パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社	新横浜拠点での公官庁からの受託業務における導入・保守の各業務	2012年3月31日(2013年3月30日)	AA ⁻ _{is}
株式会社富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ	ソフトサービス事業	2012年1月8日(2013年1月7日)	A ⁺ _{is}
株式会社PFU	株式会社PFU 全社対応	2011年11月19日(2012年11月18日)	A ⁺ _{is}



セキュリティ設備

【侵入対策】

- 窓の設置を必要最小限にとどめ、全ての窓に侵入センサーを配置

【内部対策】

- 区画毎に多段階のセキュリティレベルを設定し、要員の入室領域を制限
- ICカード+指紋センサーでの管理により、入退室した要員を特定
- 71台のITVカメラを設置し、死角の無い館内監視を実施
- センターの入り口に金属探知機を設置し、携帯カメラやPCなどを含めた私物持ち込みを禁止
- マシンルームにサークルドアを設置し、連れ込み入室を防止



▲ ITVカメラ
入退室時のログ・画像を、
全てデジタルデータとして
1年間保管しております。

▲ 各カメラからの
映像を録画

センター内セキュリティレベル

センター内のセキュリティレベルを多段階に設定サーバ室に入れるのは、限定された要員のみとなります。



「入退室 管理機器」



金属探知器



ICカードリーダ



指紋センサー



サークルドア

免震構造、雷対策、火災、漏水対策の充実

【地震対策】

■サーバ棟:免震構造

過去最大級(震度7)の地震に耐え得る
免震建物。

地表面加速度が100gal程度の場合は、床面加速度は1/2程度に減衰
地表面加速度が300gal程度の場合は、床面加速度は1/3程度に減衰
地表面加速度が600gal程度の場合は、床面加速度は1/5程度に減衰

■管理棟:耐震構造

サーバ棟は免震構造、管理棟は耐震構造とし、震度6強から7の地震発生時でも継続してデータセンターの機能を維持



【火災対策】

サーバ室には超高感度煙センサーを設置、窒素系ガスによる消火設備を備えており、耐火構造による延焼防止対策を実施

■超高感度煙センサーの設置により 早期検知・消火を実現します。

■窒素系ガス(イナージエン)消火の採用 により、人体・機器に影響のない消火 を実施します。

■耐火構造により類焼等を防ぎます。 外壁:鉄筋コンクリート+タイル 内装:全て耐火材を使用



【雷対策】

■全てのアースを積極的に接続する
統合接地方式を採用し、建物内全
体で等電位化を図り、落雷時の高電
位差から発生する大電流による機
械電損傷を防ぎます。

【漏水対策】

■空調機周囲および配管に**漏水センサー**を
設置し、漏水の発生を早期検知します。

■空調機室をマシン室
と分離し、情報機器
に影響を与えません。



IT-BCP第三者認証の概要

計画	5.1.1 ITサービス継続計画(必須)	情報セキュリティフォーラムにてISMS年間計画。
実装	5.2.1 情報システムアーキテクチャーの決定	ネットワークの二重化、仮想化技術による冗長化。
	5.2.2 費用対効果の検討	サービス中断・停止による損失を算出している。
	5.2.3 関連基準との整合性	公共ITにおけるアウトソーシングに関するガイドライン、IDCイニシアティブ：IDC活用ガイドライン(高品位規格)に準拠。
	5.2.4 データの保全(必須)	DISK to DISK to TAPEのバックアップ。媒体は別棟の倉庫棟に。
	5.2.5 システムの保全	サーバの仮想化、ネットワークの二重化。
	5.2.6 通信回線	通信回線の冗長化、通信回線事業者の局設備をセンター内に設置、局設備までの物理回線もループ構成で経路も分けている。
	5.2.7 電源の確保(必須)	2つの変電所より2系統(経路)受電、全情報システムに10分以上の電源を供給できるUPSとUPSの予備機を準備。全ての情報システムに電源供給出来る自家発電の準備。72時間の連続給電可能な燃料の備蓄、燃料供給はグループ会社より確実に行われる。
	5.2.8 クライアント環境	通常は第一棟で運用操作を行うが、緊急時は第二棟で運用操作。
運用	5.3.1 従業員	ITサービス継続のための要員を特定。グループ全体で全従業員及び家族の安否確認手順が定められ、安否確認訓練が年4回実施。
	5.3.2 ワークスペース	第一棟で運用継続不可の場合は第二棟で運用継続。
	5.3.3 外部サービス	コンフィデンシャルサービスに運用委託しているが、同社は三谷産業の子会社であり、事業継続については三谷産業と同じ基準にて実施。ISMSも同社をスコープ範囲に取得。
	5.3.4 サービスレベル管理	サービス仕様書により、サービスレベルを決定しており、緊急事態発生時にも同レベルを維持する為の対策を定めている。
テスト と 監査	5.4.1 テスト・訓練・演習	停電テスト、停電時の行動教育、実施訓練(年2~3回実施)や、災害発生時の従業員・家族の安否確認訓練(年4回実施)を定常的に行い、対処能力の向上に努めている。更にBCP訓練として安否確認～緊急運用対応～お客様への広報までの訓練を計画している。
	5.4.2 監査	客観的な評価を行う為、監査計画に基づき、ISMS内部監査を実施。
改善	5.5.1 ITサービス継続計画のレビュー(必須)	定期的にもしくは重大な変化が発生した場合の適切性・有効性を確実にするため情報セキュリティフォーラムでレビュー。
	5.5.2 情報の記録((必須))	ITサービス継続に関して発生した情報システム障害はISM2-005セキュリティインシデント管理ガイドラインに従ってインシデントを記録。
	5.5.3 平時からの情報収集と検証	他社のトラブルから反省する自社サービスのリスクを作成し、ITサービス継続に与える影響の評価・検証をしている。



二重化、冗長化された電源設備

5.2.7 電源の確保(必須)

受電系統の二重化・UPS・自家発電装置・燃料の自社調達を組み合わせノンストップ運転を実現

電源系統イメージ図



免震建物(屋上)に
設置し、災害時の
安全性を確保して
います
72時間以上の連続
運転可能な燃料を
備蓄

常用系

トラブル時
自動切替

予備系



三谷サイエンスパーク研究所第二棟

電気室

UPS

サーバ室

受電設備

予備機

変電所～受電設備も二重化(二系統受電)、UPSは予備機を用意しているため、保守点検時も停止する事なく連続運転を可能とします。

主電源断(2回線共)

自家発への切り換え時間約3分

自家発供給開始

UPS運転可能時間10分

大規模災害発生時も弊社エネルギー部門との連携により燃料(軽油)の自社調達を行い長時間の自立運転を実現いたします。

停電発生時の要員行動教育、実地訓練を年2回以上実施しています

免震構造のデータ保管庫棟をサーバ棟と別の建物として保有しており、サーバとの同時被災を防ぎデータ媒体を安全に保管可能



ネットワーク接続の継続性

災害やトラブル発生に備えて、基幹回線・基幹LAN機器を完全二重化し、回線切断リスクを回避

運用要員の確保、緊急宿泊の設備

5.3.1 従業員
5.3.2 ワークスペース

運用要員の確保

当社グループ全体で、緊急事態発生時の全従業員・家族の安否確認体制が確保され、安否確認訓練を年4回実施。地震などの災害発生時や新型インフルエンザ流行に対して、当社グループ会社からのIT要員確保を含めた事業継続計画を作成

緊急宿泊の設備

緊急時の簡易宿泊室(シャワー、ベット完備の個室)2室をセンター施設内に完備。その他宿泊先として、徒歩圏内の「石川ハイテク交流センター」を利用する事が可能。また、災害時に賃貸可能なオフィススペースとして、徒歩圏内に「いしかわクリエイトラボ」がある。

行政の支援

金沢メインストリートへの オフィス進出を支援します

金沢市では、都市機能の強化とまちなかにおけるオフィス街の環境の向上、経済活動の活性化を図るため、本市中心市街地[※]へのオフィス進出を支援します。
(※補助対象エリアは下の図を参考にしてください。)

オフィス賃料の2／3を2年間補助！

【限度額】1400万円（特認の場合3500万円）

家賃(共益費を除く)の2／3を2年間助成します
【新規雇用50人以上の場合は特認として5年間助成】
〔事務所賃料の翌月から24カ月間が助成対象となります。〕

新規雇用1人当たりに50万円！

【限度額】2000万円

オフィス開設時に金沢市民を新たに正社員とした場合、1人につき50万円を助成します

〔1.雇用前概ね3ヶ月以上前に就いていない金沢市民を、2.事務所開設までに、3.開設企業の雇用保険被保険者として、4.週20時間以上勤務で、5.開設の翌年度末まで雇用することが条件となります。〕



石川県のサポート

INDUSTRIAL RESERVATION OF ISHIKAWA

石川の大地で大きなビジネスチャンスを!
石川県企業誘致ガイド

よい「技術」は、よい「環境」から生まれます。
石川の新しい発想と展開に注目して下さい。

▷ENGLISH

MAIN MENU

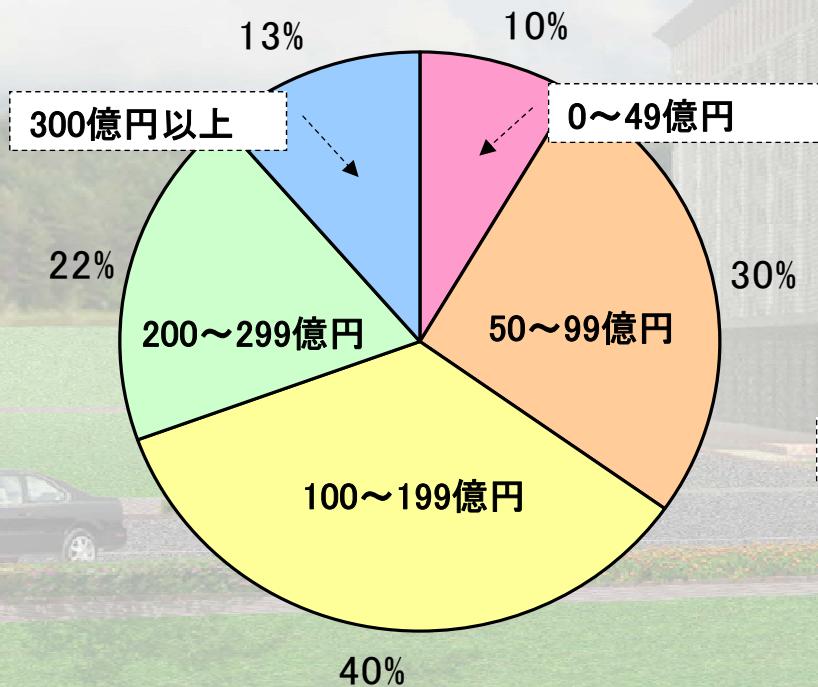
- ● アクセス
- ● 優遇制度
- ● サポート体制
- ● 工業用地
- ● 立地環境

三谷産業IDC商談の最近の傾向

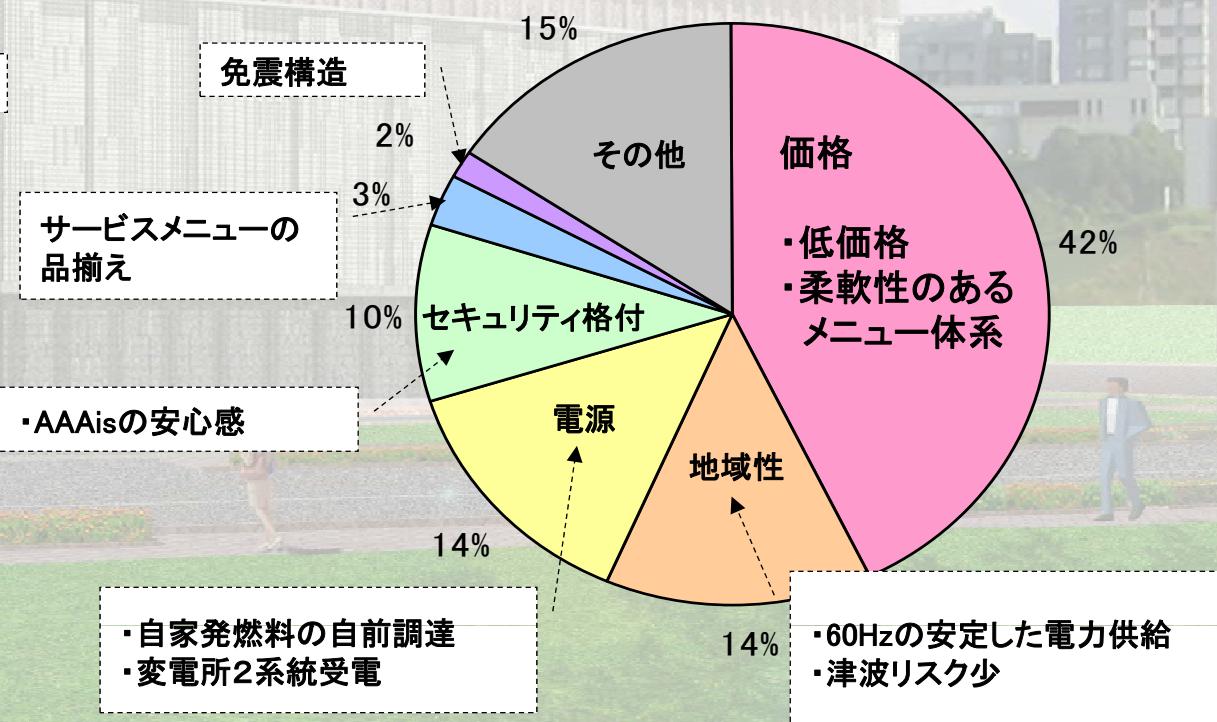
3. 11以降

⇒事業継続に対する経営層の関心が高まった

お客様年商規模

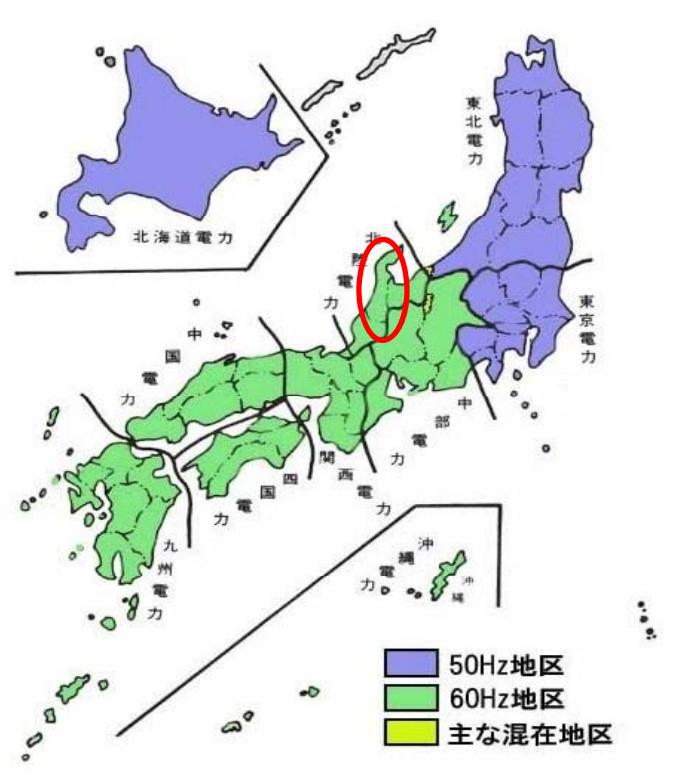


決め手となったポイント (複数回答)

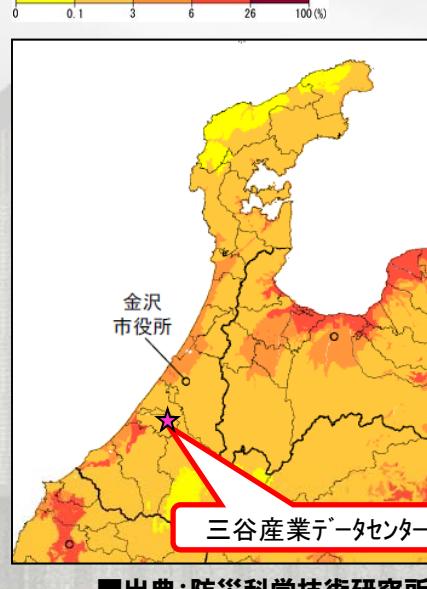


第三者証明を契機にDRサイトとしての活用推進

安心な場所で、安定した電力供給で、高品位なサービスをご提供し
第三者証明を契機にDRサイトとしての拡販を推進いたします。



石川県が今後30年以内に震度6弱以上の
揺れに見舞われる確率 2.8%



場所:石川県
・羽田-小松
・上野-越後湯沢-金沢
・東京-米原-小松

アクセス:首都圏からのアクセスは3系統
空路 約1時間
JR 約4時間
JR 約4時間

※2014年度末に新幹線開業予定

小松空港より 車で約30分
金沢市内より 車で約50分

・石川県能美市の丘陵地域に立地しており、
水害が無く(海拔100m)、耐震性に優れた
固い地盤の上に立地しております。

・商用電源の供給は北陸電力殿より60Hzの
電源周波数の安定した電源を受けており
(変電所からの二系統受電)、計画停電の
影響がありません。

※北陸電力は水力発電比率が高く黒字

・万が一電源の供給が停止し、自家発電装置
による運転に切り替わった場合でも、弊社
グループ会社より安定した燃料調達が可能。

